

子どもたちの育ちと学びを 確かなものにするために

小郡市では、1970年頃より、同和教育関係定数要求運動として、「同和教育を進めるための先生をつけてほしい」という取り組みが始まりました。この運動は、部落差別によって教育を奪われ、十分な教育を受けることができなかった被差別部落の親たちの願いからスタートしました。親たちは、「せめてわが子にだけは十分な教育を受けさせたい。」「自分のようなつらい思いはさせたくない。」という切実な願いを持っていたのです。

今では、教育条件整備充実に向けての教育要求運動として、すべての子どもたちの進路・学力保障を求める運動へと発展してきました。その結果、小郡市内にも、子どもの数に応じた先生とは別に、県や国の予算による先生の配置が実現しており、子どもたちの進路・学力保障や仲間づくりなどで力を発揮していただいています。しかし、義務教育費国庫負担金の一部廃止となるなど、現在の教育制度がこのまま進むと「教職員の確保が困難になる」などの多くの課題が考えられます。

このような状況から、昨年は、小郡市内すべての中学校区で署名活動が取り組まれ、30,788人の署名を持って福岡県教育委員会への要請行動が行われています。

具体的な

要求として

**進路・学力保障を進める先生を
要求しています。**

- ・子どもの数に応じた先生とは別に、
県や国の予算による先生を配置する
(例) 福岡県費負担単独加配
指導方法工夫改善加配
児童・生徒支援加配など

**奨学金制度の充実、改善を
要求しています。**

- ・借りられる金額を増やす
- ・支給時期を早める
- ・所得制限を緩和する など

今年も各中学校区で、教育条件整備充実に向けた署名活動が展開されると思います。市民の皆さんと様々な団体とが力を合わせて、小郡の子どもたちの教育条件をさらに整備充実していくための活動は、「人権のまちづくり」の取り組みのひとつだと言えます。

子どもたちの育ちと学びを保障することは「人権のまち・小郡」を
創造することになるのです。

**一人はみんなのために
みんなは一人のために**

問い合わせ先 人権・同和教育課 内線532・533